

RIGOL

クイックガイド

RSA5000 シリーズ リアルタイム・スペクトラム・アナライザ

**Dec. 2017
RIGOL TECHNOLOGIES, INC.**

保証と通知事項

著作権

© 2017 RIGOL TECHNOLOGIES, INC. 無断複写・転載を禁じます

登録商標について

RIGOLは、RIGOL Technologies, Inc. の登録商標です。

出版番号

QGD20102-1110

Notices

- RIGOLの製品は、中国の内外において特許法により保護されています。
- RIGOLは、弊社の単独の決定により仕様および価格方針のすべてまたは一部を修正または変更する権利を有します。
- 本出版物における情報により、過去の対応する事項を置換えます。
- 本書に記載されている情報は予告なしに変更されることがあります。
- RIGOLは、本説明書とその情報の提供、使用または実行により生じる事故または間接的に生じる損害について責任を負いません。
- RIGOLの書面による事前承認なしに、本書のいかなる部分の転写、複写または再編集を行うことを禁じます。

製品保証

RIGOLは、この製品が国内および産業に適合していることを保証します
ISO9001：2008規格およびISO14001：2004規格に準拠しています。その他の
国際規格適合証明書については作成中です。

連絡先

弊社の製品を使用中に問題や要求事項が発生した場合は、お買い求めのお店へ
ご連絡ください。

一般的安全の概要

1. 機器用に設計され、各国での使用が認可された専用電源コードのみ使用できます。
2. 装置が安全に接地されていることを確認してください。
2. すべての端子定格を守ってください。
3. 適切な過電圧保護を使用してください。
4. ガバーなしでは操作しないでください。
5. 電源端子に物を入れないでください。
7. 適切なヒューズを使用してください。
8. 回路や線材の露出を避けてください。
9. 故障の疑いがある場合は、機器を操作しないでください。
10. 適切な換気を行ってください。
11. 湿った状態では使用しないでください。
12. 爆発性雰囲気では使用しないでください。
13. 機器の表面は清潔で乾燥状態を保ってください。
14. 静電気の影響を防止してください。
15. 慎重に取り扱ってください。

安全上の注意と記号

このマニュアルの安全に関する注意事項：



警告

潜在的に危険な状況または習慣を示し、回避しないと重大なけがや死亡につながる可能性があることを示します。



注意

危険な状況や習慣を示しています。絶対に避けないと、製品が損傷したり、重要なデータが失われたりする可能性があります。

製品の安全に関する注意事項：

DANGER

操作に注意を喚起し、正しく実行されないと、すぐに怪我や危険につながる可能性があります。

WARNING

正しく動作しないと、人身事故につながる恐れがあります。

CAUTION

正しく動作しないと、製品または製品に接続されている他のデバイスに損傷を与える可能性があります。

製品に表示される安全記号:

危険な電圧



安全に関する警告



保護接地端子



シャーシグラウンド



テストグラウンド

お手入れと清掃

お手入れ

長時間、直射日光の当たる場所に保管または放置しないでください。

清掃

定期的に、使用条件に従って機器を清掃してください。

1. すべての電源から機器を外してください。
2. 中性洗剤または水で湿らせた柔らかい布で器具の外面を掃除してください。LCDを清掃するときは、傷つけないように注意してください。

**警告**

機器の損傷を防ぐため、腐食性の液体に触れないでください。

**注意**

湿気や人身傷害によるショートを防ぐため、電源装置に接続する前に、装置が完全に乾燥していることを確認してください。

ドキュメントの概要

このマニュアルでは、RSA5000シリーズスペクトラムアナライザを初めて使用する際に知っておくべき基本的な情報を紹介します。この製品には、出荷時検査方法、製品の概要、AC電源への装置の接続方法、電源投入のチェックアウト、およびリモート・コントロールの概要が含まれています。

Tip

このマニュアルの最新版については、**RIGOL**(<https://jp.rigolna.com/>)の公式サイトからダウンロードしてください。

このマニュアルの書式規則

- キー:**
フロントパネルのキーは、通常、「キー名（太字） + テキストボックス」の形式で示されます。たとえば、**FREQ**は**FREQ**キーを示します。
- メニュー・キー:**
メニューソフトキーは、通常、「メニューワード（太字） + 文字シェーディング」の形式で表されます。たとえば、**Center Freq**は、**FREQ**ファンクションキーの下にある中心周波数メニューを示します。
- コネクタ:**
フロントパネルまたはリアパネルのコネクタは、通常、「コネクタ名（太字） + 角括弧（太字）」の形式で表されます。たとえば、**[Gen Output50Ω]**です。
- 操作手順:**
"→" 次の操作ステップを表します。例えば、**FREQ** → **Center Freq** はフロントパネルで**FREQ**を押してから、メニューソフトキー**Center Freq**を押すことを示します。

このマニュアルの内容の表記規則

RSA5000シリーズスペクトラムアナライザには、次のモデルが含まれています。RSA5000シリーズスペクトラムアナライザの機能と動作方法については、特記のない限り、RSA5065を例にとり説明します。

型名	周波数レンジ
RSA5065	9 kHz ~ 6.5 GHz
RSA5032	9 kHz ~ 3.2 GHz

通常点検

1. 梱包の点検

梱包が破損している場合は、貨物の完全性が検査され、電気的および機械的試験に合格するまで、破損した梱包材またはクッション材を処分しないでください。

荷送人は、出荷に起因する機器の損傷に対して責任を負うものとします。

RIGOLは無料のメンテナンス/リワーク、または装置の交換に責任を負いません。

2. 製品の点検

機械的損傷、部品の欠落、または電気的および機械的試験の合格に失敗した場合は、お買い求めの販売店または**RIGOL**営業担当者に連絡してください。

3. 付属品の確認

パッキング・リストに従って付属品を確認してください。アクセサリが破損しているか不完全な場合は、お買い求めの販売代理店にお問い合わせください。

製品概要

RSA5000シリーズは、高性能のコスト・パフォーマンスに優れた新世代のリアルタイム・スペクトラム・アナライザです。優れた性能仕様、クリーンで信頼性の高い出力、分かり易いユーザ・インターフェイスを備えたRSA5000シリーズは、前面パネルのキーを押す、タッチ・スクリーンを使用する、マウスとキーボードを接続するなど、さまざまな方法で操作できます。リモート通信インターフェイスも利用できます。教育科学、企業の研究開発、工業生産などの分野で広くご使用いただけます。

フロント・パネルの説明については、図1を参照してください。背面パネルの説明については、図2を参照してください。メイン・インターフェイス（LCD）の説明については、図3を参照してください。

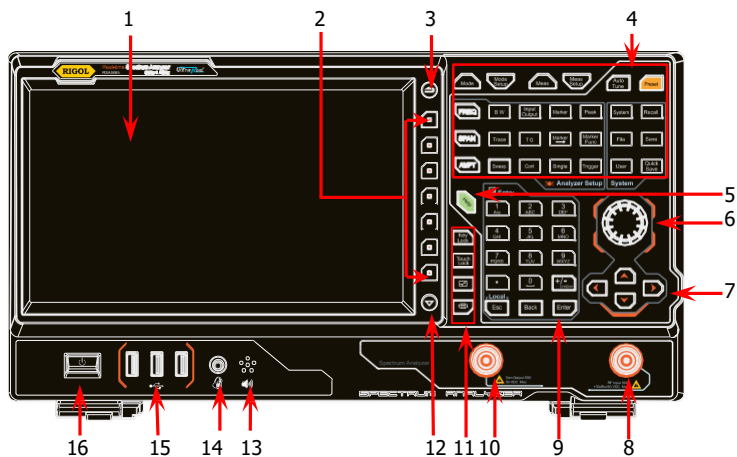


図1 フロント・パネル

表1 フロント・パネルの説明

No.	説明	No.	説明
1	液晶ディスプレイ	9	数値キーボード
2	メニュー・ソフト・キー	10	トラッキング・ジェネレータ出力 ^[1]
3	前のメニューページに戻る	11	ユーティリティ機能キー・エリア
4	ファンクション・キー・エリア	12	ページ・アップ/ダウン・キー
5	ヘルプ・キー	13	スピーカー
6	ノブ	14	イヤホン・ジャック
7	矢印キー	15	USBホスト・インタフェース
8	RF入力	16	電源スイッチ

注^[1]: この機能は、RSA5000-TGまたはRSA5000-TGが取り付けられた機器でのみ使用できます。

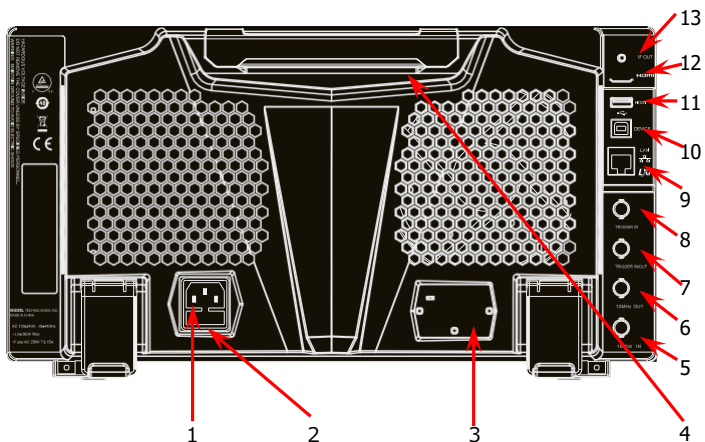


図2 リア・パネル

表2 リア・パネルの説明

No.	説明	No.	説明
1	AC電源コード・コネクタ	8	トリガ入力
2	ヒューズ・ホルダ	9	LANインタフェース
3	OCOXO (オプション)	10	USBデバイス・インタフェース
4	ハンドル	11	USBホスト・インタフェース
5	10MHz 入力	12	HDMI
6	10MHz 出力	13	IF 出力
7	トリガ入力/出力	—	—

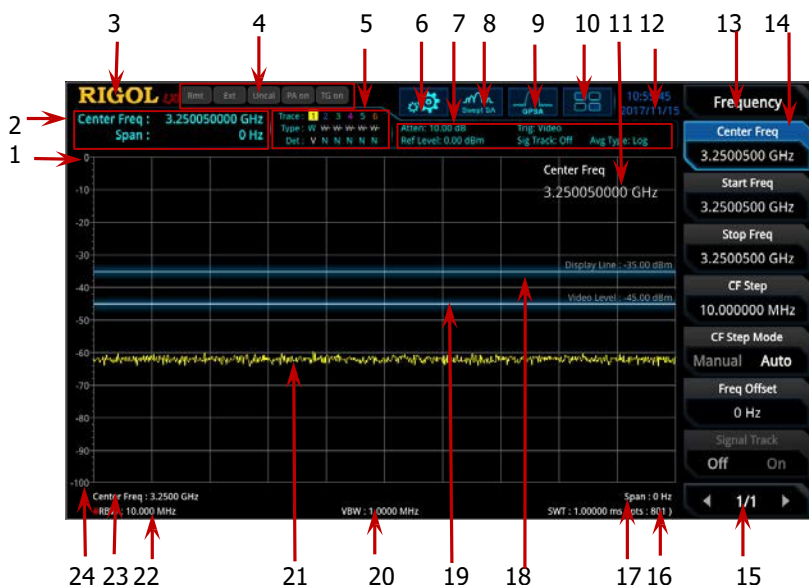









図3 ユーザ・インターフェース

表3 ユーザ・インターフェースのアイコン

No.	名称	説明
1	リファレンス・レベル	基準レベルの値を表示します。
2	測定結果	マーカの現在の測定結果を表示します（マーカが存在しない場合、測定結果に周波数/スパン値が表示されます）。
3	RIGOL	リゴルのロゴが表示されます。
4	システム・ステータス	Rmt：リモート操作を示します。 Ext：外部参照を示します。 Uncal：測定が較正されていないことを示します。 PA on：プリアンプが有効になっていることを示します。 TG on：トラッキングジェネレータが有効になっていることを示します。
5	トレース・インジケータ	トレースと検波器に関する情報を表示します。

6	情報設定	 : プロンプト・メッセージ、アラーム・メッセージ、エラー・メッセージなどのメッセージを示します。  : スピーカーを示します。スピーカーの音量を上げたり下げたり、ミュートに設定したりすることができます。  : ネットワーク設定を示します。ネットワークパラメータを設定できます。  : フロント・パネルのキー・ロックを解除します。  : フロントパネルのキーをロックします。  : タッチ・スクリーンのロックを解除します。  : タッチ・スクリーンをロックします。
7	測定バー	測定設定を表示します。
8	測定機能	現在選択されている測定機能を表示します。
9	作業モード	現在選択されている作業モードを表示します。
10	ファンクション・キー・パッド	キー・パッドをクリックして、ファンクション・キー・パッド・インターフェイスを表示します。
11	アクティブ機能領域	現在のパラメータとその値を表示します。
12	時間	システム時間を表示します。
13	メニュー・タイトル	現在選択されているメニュー名を表示します。
14	メニュー項目	現在の機能のメニュー項目を表示します。
15	メニュー・ページ	現在のページとメニューの総ページ数を表示します。
16	掃引時間とポイント	掃引モードでの掃引時間と掃引ポイントの数を示します。
17	スパンまたはストップ周波数	現在の掃引チャンネルの周波数範囲は、中心周波数とスパンの組み合わせ、または開始周波数と停止周波数の組み合わせで表すことができます。
18	トリガ・レベル	ビデオ・トリガ・レベルを示します。
19	ディスプレイ・ライン	ピークの読み出し基準と閾値基準を示します
20	VBW	ビデオ帯域幅を示します。
21	スペクトラム・ライン表示エリア	スペクトル線の表示領域を示します。
22	RBW	分解能帯域幅を示します。
23	センターまたは開始	現在のスイープの周波数範囲は、

	周波数	現在の掃引チャンネルの周波数範囲は、中心周波数とスパンの組み合わせ、または開始周波数と停止周波数の組み合わせで表すことができます。
24	Y スケール	Y軸のスケール表示を示します。

注^[1]:

トレースインジケータの表示を次の図に示します:

Trace: 1 2 3 4 5 6 ← トレース番号 ト
 Type: W W W W W W ← レース・タイプ
 Det: P N N N N N ← 検波器タイプ

- 最初の行にトレース番号が表示されます。番号の色はトレースの色と同じです。
- 2行目には、W (クリア/ライト)、A (トレース平均)、M (最大ホールド)、およびm (最小ホールド) を含むトレースタイプが表示されます。異なる色と異なる形の文字は、異なる意味を表します。
 - 青色の文字は、トレースが更新中であることを示します。
 - グレーの文字は、トレースが更新されていないことを示します。
 - 取り消し線と灰色の文字は、トレースが更新も表示もされないことを示します。
 - 取り消し線と青色の文字は、トレースが更新中だが表示されていないことを示します。波形演算で便利です。
- N (Normal, GPSAのみ)、V (Voltage Average, GPSAのみ)、P (Positive Peak)、p (Negative Peak)、S (Sample)、R (RMS Average, GPSAのみ)、Q (Quasi Peak, GPSAのみ)、A (Average, RTSAのみ) の各トレースの検波器タイプが表示されます。"f"が表示されている場合は、演算動作トレースであることを示します。3行目の青色の文字 (検波器タイプ) は、検波器が自動状態にあることを示します。白い文字はマニュアル状態であることを示します。

使用準備

支持脚の調整

支持脚を広げてスタンドとして使用すると、製品を上に向けて操作や観察が容易になります。また、製品が使用されていないときに、簡単に保管または出荷するために、サポートする脚を折り畳むこともできます。

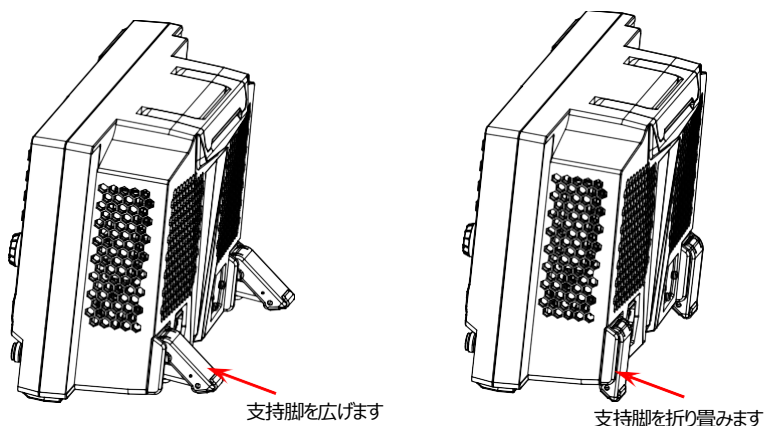
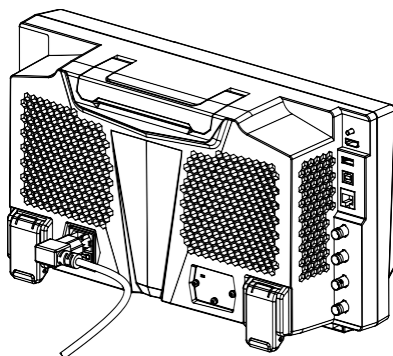


図4 支持脚の調整


AC電源の接続

スペクトラム・アナライザをAC電源に接続するには、付属品の電源コードを使用してください。このスペクトラム・アナライザのAC電源仕様は、100～240 V、45～440 Hzです。機器の消費電力は95 Wを超えません。スペクトラム・アナライザが電源コードを介してAC電源に接続されている場合、機器は自動的に適切な電圧範囲内に調整されますので、手動で電圧範囲を選択する必要はありません。

**注意**

感電を防ぐため、装置が正しく接地されていることを確認してください。

電源投入時点検

機器を電源に正しく接続したら、前面パネルの電源ボタン  を押してスペクトラム・アナライザを起動します。次に、最初のスプラッシュ画面が表示されます。スタートアップ初期化プロセス情報を表示するスタートアップ画面に続いて、掃引波形が表示されます。

自己校正

機器が起動したら、自己校正を実行します。

System → **Alignment** → **Align Now** を押すと、機器は内部校正ソースで自己校正を実行します。

システム言語の設定

RSA5000シリーズスペクトラムアナライザは、複数のシステム言語をサポートしています。システム言語を切り替えるには、**System** → **Language** を押してください。

基本操作

マウス/キーボード/タッチ・スクリーン操作ルール

マウス操作ルール

USB HOSTインターフェースを介してマウスを接続します（左クリック操作のみがサポートされており、マウスによるスクロール操作と右クリック操作はサポートされていません）。：







1. メニューとウィンドウをクリックして選択します。
2. マウスの左ボタンを押し続けて、目盛りに表示されているデータをドラッグするか、スライドバーを移動します。
3. 目盛りに表示されているデータをダブル・クリックすると、データが右隅に表示されます。
4. マーカー機能では、マウスを使用してマーカーを移動できますが、マーカーをマウスで追加することはできません。

キーボード操作ルール

USB ホスト・インタフェースを介してキーボードをスペクトラム・アナライザに接続し、キーボードのショートカット・キーを使用してフロント・パネルのキーと同じ機能を実行します。

表4 フロント・パネル・キーとキーボード・ショートカット・キーの対応関係

フロント・パネル・キー	キーボード・ショートカット・キー ^[1]
モード	Alt + o
モード設定 ^[2]	Shift + o
測定	Alt + e
測定設定 ^[2]	Shift + e
自動同調	Ctrl + Alt + a
プリセット	Ctrl + Alt + p
周波数 ^[2]	Shift + f
スパン ^[2]	Shift + s
振幅 ^[2]	Shift + a
バンド幅 ^[2]	Shift + b
トレース ^[2]	Shift + t
掃引 ^[2]	Shift + w

入出力 ^[2]	Shift + i
トラッキング・ジェネレータ ^[2]	Shift + g
連続	F11
マーカ ^[2]	Shift + m
マーカ -> ^[2]	Shift + k
シングル	F12
ピーク ^[2]	Shift + p
マーカ機能 ^[2]	Shift + u
トリガ ^[2]	Shift + r
システム ^[2]	Shift + y
ファイル	Ctrl + f
ユーザ	Ctrl + u
リコール	Ctrl + r
セーブ	Ctrl + s
クイック・セーブ	Ctrl + Alt + q
ヘルプ	Alt + F1
	Alt + F2
	Alt + F3
	Alt + F4
	Alt + F5
	Page Up
	Page Down
11個の数字キー	キーボードの数字キー：10の数字（1、2、3、4、5、6、7、8、9、0）と小数点（.）
+	+
-	-
Esc	Esc
Back	Backspace
Enter	Enter
矢印キー（上/下/左/右矢印キー）	↑, ↓, ←, →
7つのメニュー・ソフト・キー上から下へ	F1 to F7

注^[1]: 上記の表に記載されているキーボード・ショートカット・キーを除き、キーボードの他のすべてのキーはメニュー操作では機能しません。

注^[2]: Caps Lockキーを有効にすると、「Shift」キーを押していなくても、入力するすべての文字は大文字になります。無効にした場合は、キーボードの「Shift」と指定された文字を同時に押して、文字を大文字で入力する必要があります。たとえば、Shift + fショートカットキー操作を実行する場合は、Caps Lockキーが有効であることを前提に「f」キーを押すだけです。

タッチ・スクリーン操作ルール

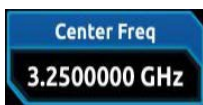
RSA5000は、タッチ・ジェスチャーをサポートする10.1インチの容量性マルチ・タッチ・スクリーンを備えています。

1. マーカーメニュー以外のメニューで操作しているとき：
 - トレース・ウィンドウをタップし、左右にスライドさせて中心周波数を変更します。基準レベルを変更するには、上下にスライドします。
 - トレース・ウィンドウで2本の指を水平に広げてスパンを減らし、指を水平につまみスパンを広げます。2本の指を垂直方向に広げてY軸の縮尺を小さくし、指を垂直につまみ、Y軸の縮尺を大きくします。
2. マーカーメニューで操作しているとき：
 - 画面トレース領域の空き領域で、その領域を押し続けて新しいマーカーを1つ追加します。
 - 1つのマーカーをタップ&ホールドしてマーカーをドラッグします。

メニュー操作

操作モードによって6種類のメニューがあります。各タイプのメニューとその操作方法を以下に紹介します。

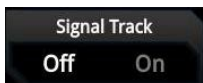
1. パラメータ入力



メニューを選択し、数値キーを使用して値を直接変更します。

たとえば、中心周波数を変更するには、最初に **Center Freq** を選択してから、目的の値を入力します。次に、**Enter** キーを押してパラメータ入力を完了します。

2. 状態切り替え



対応するメニューキーを押して、サブオプションを切り替えます。

例えば、**Signal Track** を押すと "On" と "Off" を切り替えることができ、信号トラッキング機能を有効または無効にすることができます。

3. 下位レベルメニューの入力（パラメータ付き）



対応するメニュー・キーを押して下位レベルのメニューに入り、現在選択されているオプションを変更します。上部メニューに戻ると、上部メニューのパラメータ・タイプが変更されます。

たとえば、**Y Axis Unit** を押して下位レベルのメニューに入ります。**dBm** を選択し、自動的に前のメニューに戻ります。次に、Y軸の単位がdBmに変更されます。

4. 下位レベルメニューの入力（パラメータなし）



対応するメニューキーを押して、下位レベルのメニューに入ります。

たとえば、**Peak Config** を押して下位レベルのメニューを直接入力します。

5. 直接実行



キーを押すと対応する機能が実行されます

たとえば、**Mkr->CF** を押して、アナライザの中心周波数を現在のマーカの周波数に設定します。

6. 状態の選択



対応するメニュー・キーを押してパラメータを変更し、前のメニューに戻ります。

たとえば、**Source** → **Free Run** を押してフリー・トリガーを選択します。アナライザは現在フリーラン状態です。

Tip:

上記のメニュー操作は、タッチジェスチャーまたは外部接続されたマウスをクリックすることによって実行できます。また、キーボードに接続し、ショートカットキーを使用して上記のメニュー操作を実行することもできます。前面パネルのキーとキーボードショートカットキーの対応関係については、[表4](#)を参照してください。

パラメータ設定

フロント・パネルのテンキー、ノブ、または矢印キーを使用して、必要なパラメータ値を入力できます。また、タッチ・スクリーン、キーボード、またはマウスを使用してパラメータを設定することもできます。このセクションでは、6つのパラメータ設定方法を説明するための例（中心周波数を800 MHzに設定）を示します。

1. テンキーを使用する

- 1) **FREQ** → **Center Freq** を押す;
- 2) 数字キーを使用して800を入力します;
- 3) ポップアップメニューから目的の単位 (MHz) を選択します。

2. ノブを使用する

パラメータが編集可能なときは、ノブを時計回りに回して増加または反時計回りに回して、指定したステップでパラメータ値を減少させます。

- 1) **FREQ** → **Center Freq** を押す;
- 2) パラメータが希望の値 (800 MHz) に設定されるまでノブを回します。

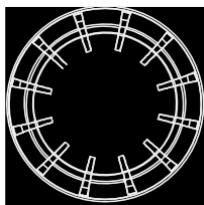


図5ノブ

3. 矢印キーを使用する


パラメータが編集可能な場合は、矢印キーを使用して特定のステップでパラメータ値を増減します。上/下矢印キーと左/右矢印キーのステップ・サイズが異なることに注意してください。

- 1) **FREQ** → **Center Freq** を押す;
- 2) パラメータが希望の値 (800 MHz) に設定されるまで、上/下矢印キーまたは左/右矢印キーを押します。



図6矢印キー

4. タッチスクリーンを使用する


- 1) 画面をタッチして、右上隅のファンクション・キーボード・アイコン  を選択します。その後、ファンクション・キー・パッドが表示されます。“FREQ”をタッチします。
- 2) **Center Freq** をクリックします；
- 3) 次にテンキーが表示されます。800を入力し、希望の単位“MHz”を選択します。

5. キーボードを使用する

- 1) "[Shift] + f"を押して周波数メニューを開きます。；
- 2) "F1"を押して**Center Frequency**を選択します；
- 3) 数字キーを使用して800を入力；
- 4) "F2"を押して、ポップ・アップ・メニューから目的の単位（MHz）を選択します。

前面パネルのキーとキーボードショートカットキーの対応関係については、[表4](#)を参照してください。

6. マウスを使用する

- 1) マウスをクリックして、画面の右上隅にあるファンクションキーボードアイコン  を選択します。その後、ファンクションキーボードが表示されます。“FREQ”をクリックします；
- 2) **Center Freq** をクリックします；
- 3) 次にテンキーが表示されます。800を入力し、希望の単位“MHz”を選択します。

内蔵ヘルプ・システムを使用する

内蔵ヘルプ・システムは、フロント・パネルのすべてのファンクション・キーとすべてのメニュー・ソフト・キーに関する情報を提供します。

1. 内蔵ヘルプ情報を取得する

Help を押すと、ヘルプ情報の入手方法に関するプロンプトが画面に表示されます。次に、その使用方法を知りたいキーを押して、キーの関連するヘルプ情報を画面に表示します。

2. ページ・アップ/ダウン操作

ヘルプ情報が複数のページに表示されている場合は、矢印キーを押すか、ノブを使用してヘルプ情報を上下に移動できます。

3. 現在のヘルプ情報を閉じる

ヘルプ情報が画面に表示されたら、次の操作のいずれかを実行して、現在表示されているヘルプ情報ダイアログボックスを閉じます：

- **Esc** を押します；
- **Help** キーをもう一度押します；
- 表示されたヘルプ情報ダイアログボックスで“OK”をクリックします

4. メニュー・キーのヘルプ情報を取得する

Help を押すと、ヘルプ情報表示ウィンドウが画面に表示されます。メニューキーを押すと、対応するメニュー項目のヘルプ情報が表示されます。

5. 任意のファンクション・キーのヘルプ情報を取得する

Help を押すと、ヘルプ情報表示ウィンドウが画面に表示されます。次に任意のファンクションキーを押すと、対応するファンクションヘルプ情報が表示されます。

ヒューズの交換

ヒューズを交換する必要がある場合は、指定されたヒューズ（AC 250 V、T3.15 A；5.2 mm×20 mm）のみを使用し、次の操作を実行してください：

1. 機器の電源を切り、電源コードを抜いてください。
2. 小型のまっすぐなマイナスドライバーを使用して、ヒューズ・ホルダを持ち上げてください。
3. ヒューズを取り出してください。
4. 古いヒューズを指定されたヒューズと交換してください。
5. ヒューズ・ホルダを取り付けてください。

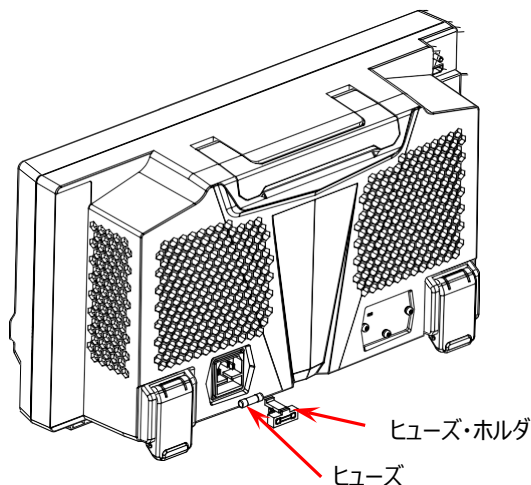


図8 ヒューズの交換



警告

感電を防ぐため、本器の電源が切れていること、電源は遮断されており、使用するヒューズはヒューズ定格に適合していることを確認してください。

動作モードの設定

RSA5000には、GPSA (汎用スペクトラムアナライザ)とRTSA (リアルタイムスペクトラムアナライザ)の2つの動作モードがあります。**Mode** を押して作業モードを選択します。

注:異なる作業モードでは、フロントパネルのキーの機能が異なる場合があります。**Help** を押すと、現在の作業モードのヘルプ情報が表示されます。他のモードのヘルプ情報が必要な場合は、まずヘルプインターフェースを終了してください。次に、目的の作業モードを選択し、対応するヘルプ情報を入手します。

1. GPSA (汎用スペクトラム・アナライザ)

GPSAは、掃引とFFTという2つの分析方法を採用しています。GPSAは、周波数領域解析だけでなく、時間領域 (ゼロ・スパン) 解析も実行できます。

GPSAを選択します。この動作モードでは、**Meas** を押して複数の測定値を選択できます。

2. RTSA (リアルタイム・スペクトラム・アナライザ)


RTSAは、複雑な信号をシームレスに取り込むことができるリアルタイム信号解析機能を提供します。

RTSAを選択します。この動作モードでは、**Meas** を押して複数の測定値を選択することもできます。

Mode Setup を押すと、**Mode** の下で選択した作業モードのグローバルパラメータ設定メニューを開くこともできます。現在動作モードが選択されていない場合、電源を入れると、デフォルトでGPSAモードが選択されます。

リモート・コントロール

RSA5000は、USBまたはLANインタフェースを介してPCに接続し、通信を設定し、PCを介してリモート・コントロールを実現することができます。RSA5000シリーズ・スペクトラム・アナライザは、ユーザ定義プログラミングとPCソフトウェア（RIGOL Ultra Sigma などの2つのリモート・コントロール方法をサポートしています。

機器がリモート・コントロールされている場合、フロントパネルのキー（電源キー  と **Esc** を除く）はロックされています。この時点で、**Esc** キーを押してリモート・モードを終了できます。

その他の製品情報

デバイス情報を取得する

System → **System Info** を押して、すべてのオプションのデバイス情報とインストール状況を表示します。

この機器の詳細については、**RIGOL** (<https://jp.rigolna.com/>) の公式ウェブサイトログインして関連マニュアルをダウンロードしてください。

RSA5000ユーザズガイド: 機器の機能、操作方法、リモート・コントロールの方法、機器を使用する際に発生する可能性のある障害と解決方法、技術仕様、および注文情報を紹介します。

RSA5000プログラミングガイド: 機器のSCPIコマンドとプログラミングインスタンスの詳細な説明を提供します。

RSA5000データシート: 本器の主な機能と技術仕様を記載しています。

